大きな蝙蝠傘

竹久夢二

青空文庫

それはたいそう大きな蝙蝠傘でした。

幹子は、この頃田舎の方から新しくこちらの学校へ入ってきた新入生でした。髪の形も着物も、東京の少女に較べると、かなり田舎染みて見えました。けれど、幹子はそんな事を少しも気にかけないで、学科の勉強とか運動とか、つまり、少女のすべきことだけをやってのけると言った質の少女でした。たとえば青い空に葉をさしのべ、太陽の方へ向いてぐんぐん育ってゆく若木のようにのんびりした少女でした。

それにしても、幹子が毎日学校へ持ってくる蝙蝠傘は非常に大きなもので、忽ち学校中の評判になりました。

どこの級にも、頓智があってたいへん口が軽く、気の利いたことを言っては皆を笑わせることの好きな愚な生徒が一人や二人はあるものです。幹子の級にも、時子と朝子という口のわるい生徒がありました。

ある日、幹子は学校へゆく途中で、この口のわるい連中に出会いました。むろんこの時、幹子は例の蝙蝠傘を持っていたので、忽ちそれが冷笑の的になりました。

「あら何処の紳士かと思ったら、幹子さんだったわ、幹子さんお早う」

時子が言った。なるほど幹子の蝙蝠傘は、黒い毛繻子張で柄の太い大きなものだから、どう見ても、祖父様の古いのをさしたとしか見えませんでした。事実またそうであったかもしれません。この場合「何処の紳士かと思ったら」というのは、ほんとに適評だったので、皆はどっと笑いくずれました。

幹子も一緒になって笑いながら「お早う」と挨拶して、つまらないお友達にかまってはいられないと言ったように、さっさとそこを通りぬけて、まっすぐに学校の方へ歩いた。

「あのくらい蝙蝠傘が大きかったら日にやけないで好いわね」

「ええ、だから幹子さんは、お色が白いわよ」

そう言って冷笑しているのも幹子の耳へ這入った。けれど幹子は何を言われても平気でいた。

「でも幹子さんの田舎じゃあれでたいへんハイカラなのかも知れないわ」

「そうね。私はこう思うの、幹子さんのお父様はきっと薬屋さんに違いないわ。だから幹子さんをいまに薬売にするんだわ。ほら、よく薬売があんな大きな蝙蝠傘をさして来るでしょう。「本家、讃岐は高松千金丹……つて歌って来るじゃないの」そう言って時子は、面白く節をつけて歌って見せた。

「そうよ、そうよ」

「きっとそうだわ」

と口口に言うのでした。

この時、幹子は静かに気にもかけないような風で振返りながら、

「私が薬屋になったら、好い薬を売ってあげますから、安心していらっしゃいな」

幹子は、笑いながらそう言って、すたすたと行ってしまった。

そう言われると、口のわるい連中も、さすがに何も言えないで黙っていた。

それから四五日してから学校の授業中、俄に雨が降りだして、授業の終る頃には流れるように降ってきた。

今こそ、この冷笑の種になった大きな蝙蝠傘が役にたつ時が来た。

幹子は、時子や朝子（あさこ）が、小さな美しい蝙蝠傘を持てあましているのを見かねて、

「皆様この中へ這入っていらっしゃいな、大きいからみんな這入れてよ」

三人は仲よく、大きなハイカラな蝙蝠傘のお蔭（かげ）で、少しも雨にぬれないで家（うち）へ帰ることが出来たのでした。

青空文庫情報

底本：「童話集　春」小学館文庫、小学館
　　2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行
底本の親本：「童話　春」研究社
　　1926（大正15）年12月
入力：noir
校正：noriko saito
2006年7月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

大きな蝙蝠傘

竹久夢二

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/